

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT  
2010.10. VOL.13

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

楽 学生生活  
Campus life

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## これからの医学研究科の国際交流

研究科長・医学部長 白井 智之

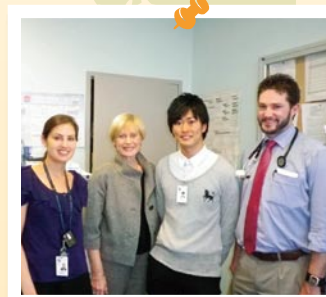
本学には国際交流推進センターが設置されていて、各学部での国際交流をより効果的に進めるために種々の活動を行っています。言うまでもなく、学生にとっても、研究者にとっても、年齢・性別を問わず他国の人たちとの交流から得られる様々な体験はたとえ短い期間であっても貴重な経験であり、喜びです。独自の文化・習慣・歴史あるいは宗教に根付いた考え方、取り組み方、あるいは社会構造の違いを学びとる機会でもあります。また共通語としての英語や自国語の重要性を再認識することになります。

現在、留学制度の中に2つの仕組みがあります。一つは大学間あるいは学部間で交流協定を締結している協定校留学と、もう一つは協定校以外です。医学部では協定校として、オーストラリアのシドニーにあるニューサウスウェールズ大学(University of New South Wales, UNSW)での選択制臨床実習に毎年2名のM6学生が6月から7月にかけて4週間参加しています。毎年、M5学生の応募者から会話を含めた英語力や積極性などを選考員との面接によって選出します。往復航空運賃と4週間の滞在費の一部を大学が支援しています。今年も2名のM6学生がUNSWの関連病院で臨床実習体験をしました。海外の医療に触れ新鮮でインパクトのある経験と感激が留学経験者の体験談から伝わってきます。もっと多くの学生に体験してほしいと思っていますが、UNSWの受け入れ体勢などの制約があり現在のところでは2名となっています。この他に、6年次の選択制臨床実習では、各診療科が学外実習先として海外の大学と連携している場合もあり、ヨーロッパやアメリカの大学で毎年数名の学生が実習を行っています。また、海外からの医学生の受け入れでは、韓国春川市にあるハルリム大学医学部(Hallym University)の学生(5年生、6年生各一名)が昨年からの夏休み期間を利用して、4週間臨床実習を体験するために来校しています。まだカリキュラムとしてシステム化されていないので、学生の希望に添って内科や外科などに指導をお願いしています。改めて各分野の先生方にお礼申し上げます。すでに昨年初めて来た2人の体験談をこの瑞医10号にも掲載いたしました。日本と韓国の医学教育の違いを体験し、また本学での医療や教育方法の良さや違いに驚きの感想を述べていますし、友人が出来たと喜んでます。これこそ国際交流の本骨頂です。現在はハルリム大学から名市大への一方通行ですが、将来相互に短期間留学できるシステム作りが今後の課題です。両国の交流がこの小さい活動を通して大きく羽ばたくことを望んでいます。

その他毎年、医学部学生をはじめ、研究者がアメリカを中心とした海外の大学、病院あるいは研究室に短期から長期の留学をしており、国際交流という点で大変喜ばしいことです。しかし海外からの研究留学が最近とみに減少しています。今後海外からの研究留学生の誘致は国際交流の面だけでなく、研究、特に基礎医学研究の更なる活性化には必須と考え、対策が迫られていると認識しています。



写真:9/17にUNSW派遣報告会を実施しました。野口君は現地での体験から医学教育の中での一貫した英語での教育の必要性を感じたと報告。名市大を「Think Global Act Localな大学に!」と提言してくれました。後輩よ、後に続け!!



写真中:M6野口君。皮膚科外来のスタッフと。「患者とのコミュニケーション量の豊富さ、実践的な医学教育が印象的でした。」



写真右:M6櫻井さん。お世話になった病院の前で。希望した感染症科で実習。「現地は医療現場も社会も感染症に非常にオープンでした。また、外から日本という国を見て、考える機会にもなりました。」

## “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 連携病院

### 連携病院 — 地域医療を担う拠点・中核病院

#### — 宮市立市民病院 — Q: 病院の特色は?

— 尾張西部医療圏の中核病院 —

当院は、尾張西部医療圏を代表する医療機関として、良質で高度な医療サービスを提供してまいりました。昨年10月に南館が完成し一般病床数は560床となり、最新鋭の手術室を10室設けました。今年5月には北館のリニューアルにより、ICU・HCU30床が稼動し、救命救急センターの指定を受けました。さらにNICU9床を備え、地域周産期母子医療センターを充実させているほか、災害拠点病院・地域がん診療連携拠点病院の認定を受けています。

また名古屋市立大学からは小児科判治副院長、産婦人科大嶋副院長をはじめ、小児科・産婦人科・耳鼻科など、約20名の先生方を派遣していただいております。地域医療の要として、頑張ってください。本年10月には県立循環器呼吸器病センターとの統合を果たし、今後も地域の皆さんに愛され、信頼され、期待に応えられる病院を目指し、職員一同が心を一つにして努力してまいります。

— 宮市立市民病院 院長 中條 千幸



#### — 豊田厚生病院 — Q: 病院の特色は?

— 西三河北部医療圏の市民病院的病院 —

愛知県厚生連の旧加茂病院は、平成20年1月1日、名鉄豊田線浄水駅前に新築移転し、豊田厚生病院と名称を変え新しい第一歩を踏み出しました。移転後2年半が経過した現在、地域の診療所や住民の信頼を得て、順調に成長しております。

当院は病床数606(感染症病床6床を含む)、診療科数25の急性期病院です。救命救急センターは年間救急車数6000台余りを受け入れており、地域中核災害医療センターとして屋上ヘリポートも整備し、ドクターヘリの利用も高まっています。また、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療に力を入れており、緩和ケア病棟も設置しています。名古屋市立大学からは岩瀬副院長をはじめとした泌尿器科、麻酔科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方に加え、初期臨床研修医の先生方も活躍されています。

— 豊田厚生病院 院長 片田 直幸



## 教育

### オープンキャンパスを開催しました — 8月3日

本当に暑かった今年の夏、強い日差しが照りつける中、会場いっぱいの参加者をお迎えし、オープンキャンパスがスタートしました。

本学の特長を、カリキュラムの面から、在校生の体験談から、そして、模擬講義を通じて、たっぷり体感していただきました。

会場からは、「医師のやりがいとは?」といった質問があり、藤井教授から「外科医として手術で患者さんを助けることはもちろんですが、一人の医師ができる手術数には限りがあります。しかし、研究の成果を通して、例えば新薬を開発することができれば、より多くの病で苦しむ方を救うことができます。これもやりがい。また、学生が臨床実習で徐々に患者さんとの対話ができるようになる」といった成長を確認できる、このように医師を育てることができるとも楽しみの一つです。」と具体的な体験を交えてお話させていただきました。

現役学生からは、勉強はもちろん、部活動やMD-PhDコースに入って研究活動を行うなど、学生生活を充実させていることを紹介。

模擬授業では、医学生には主体的に学び続ける姿勢・力が求められることを、実際に授業で使用している学習方法・教材を使って、お話させていただきました。

参加者からは、「医者になることの大変さがよくわかりました。また、医学部に入ってから楽しみや医者の生き甲斐についても聞け、大学1年から患者さんと触れ合える」といった教育方針にも、名古屋市立大学に入って頑張りたいという意欲が一層強くなりました。」といった感想をいただきました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



上段左: 会場の様子。たくさんのご参加ありがとうございました!  
 上段右: 質問に答える藤井教授(腫瘍・免疫外科学)  
 中段左: 学生代表4年生西垣さん。充実した学生生活を紹介します。  
 中段右: 模擬講義の様子。吉田先生。  
 下段: 模擬講義には、5色のカードで会場も参加。

## 研究者紹介



Takahiro  
Nakazawa

### 中沢 貴宏(なかざわ たかひろ) 消化器・代謝内科学(病院教授)

専門:肝臓・胆道・膵臓病学、消化器内視鏡学、消化器病学

私は新しい疾患概念とその治療法を臨床的に確立し、世界に向けて発信することに従事してきました。難治性で肝移植しか救命の手段がないとされてきた原発性硬化性胆管炎や胆管癌と診断されて外科的に切除されてきた症例の中にステロイド投与にて軽快する一群が存在することを見出しました。IgG4関連硬化性胆管炎としてその疾患概念、診断手順、治療法を確立しました。最近ではその分類は名市大分類として広く用いられております。さらにこの疾患群は全身(下垂体、唾液腺、肺、肝臓、膵臓、腎臓など)に同様な病態をきたすことも見出しました。現在はその病態解明をめざして研究しており、さらに世界で初の臨床的な診断基準を厚労省の研究班のもとで作成中です。

近年の論文:Pancreas in press (2010),39:e1-e5 (2010) and 32:115-117(2006), J Gastroenterology in press (2010) and 44:1147-1155(2009), J Hepatobiliary Pancreatic Sci in press (2010) and in press(2010), Gastrointest Endosc 65: 99-108 (2007) and 60: 937-944 (2004)



Yuko Nagaya

### 永谷 祐子(ながや ゆうこ) 整形外科(病院講師)

専門:関節外科

関節リウマチの治療法の進歩は年毎に著しく、早期診断、早期治療により関節機能障害をきたさないよう寛解を目指して治療しています。しかし薬剤耐性進行性リウマチの存在もあり、手術的治療が必要とされる場合が多いのも現状です。手術のタイミングは生活の質の維持に大きく関わるため、人工関節、関節形成術を積極的に施行し、その長期経過を調査して、治療法の適応、有用性、問題点などを検証しています。また我々は、分子医学研究所分子神経生物学教室との共同研究によりグリオスタチンの発現制御と関節リウマチの病態形成に関する基礎研究を行っています。

近年の論文:Rheumatol Int in press (2010), Rheumatology 49:898-906 (2010), J Pharmacol Exp Ther Rheumatol 333:236-43 (2010), Rheumatol Int 29: 1367-1371 (2009), Tech Hand Up Extrem Surg 12:221-5 (2008), Mod Rheumatol 17:338-40(2007), Biol Pharm Bull 30:1140-1143 (2007), Rheumatol Int 27:553-559 (2007)



Mikinori Sato

### 佐藤 幹則(さとう みきのり) 消化器外科学(病院准教授)

専門:下部消化管外科

大腸癌は、食事の欧米化とともに右肩上がりに増加している癌の一つです。また、近年新規抗がん剤が開発され化学療法の効果向上してきている疾患でもあります。しかしながら、根治的な治療は、手術療法です。我々は、根治性を損なわずに、侵襲の少なく、なおかつ合併症の少ない安全な手術法の工夫を行っており、切除後の消化管再建時の吻合法に関してオリジナルのkey hole吻合法などを開発しています。また、進歩してきている化学療法について積極的に取り入れ、臨床試験などを通じて、術前化学療法の検討や患者の予後改善につながる治療法の検討を行っています。

近年の論文:新しい腸管吻合法(消化器外科手術アトラス)消化器外科,33:1253-1262 (2010)



Naoko Kaneko

### 金子 奈穂子(かねこ なおこ) 再生医学(助教)

専門:神経科学、再生医学

私は精神科の臨床医として4年を過ごしたのち、大学院入学を機会に「成体脳におけるニューロン新生」の研究を始めました。発達期を終えた脳でも常に新たなニューロンが生まれ、しかも長距離を大移動しているということに非常に驚き、博士課程の途中でこの研究に専念しようと決めて今日に至ります。再生医学は、難治性・不可逆性の病態の多い精神・神経疾患の臨床医学に貢献することを念頭に置いた研究分野ではありますが、研究の発展には、純粋に科学的な探求心や研究を楽しむ気持ちを持ち続けることも重要だと考えています。

近年の論文:Neuron 67: 212-223 (2010), Neuroscience Research. 66: 390-5 (2010), Neuron, 63: 774-787 (2009), Neuroscience Research, 63: 155-164 (2009), The Journal of Neuroscience, 27: 12829-12838 (2007)

## OB訪問

### 瑞友会新会長に奥村恪郎先生がご就任!

#### 「就任にあたってのご挨拶」

瑞友会会長 奥村 恪郎

本年7月より瑞友会会長に就任致しました昭和44年卒業の奥村恪郎でございます。

私達の卒業時期は、東大紛争で有名な学生運動が盛んな時であり、卒業生力を合わせ一年間非入局で青年医師会という組織を立ち上げ、教授会といろいろと交渉・改革を唱えた時代でした。

私、第一外科教室で長年お世話に成った後、開業医として20数年の歳月が経ちますが、諸先輩・後輩が各分野で大いに活躍され、多くの同窓生が母校の教授に就任されている姿を見て大変嬉しく思うところです。

最近の卒業生の方々は、聡明で優秀な人達が多い反面、卒後研修制度の影響なのか教育を受けた母校に対する愛着心が乏しく、研修生活を送った後、母校に戻る希望者が少ないと聞き及び誠にさびしい思いを致して居ります。グローバル化した今日、若き研究者たちは小さな殻に閉じ籠ってはいませんが、表題にもありますように“世界に羽ばたくMEDIPORT”としての名古屋市立大学に舞い戻り研修の成果を発揮して頂きたいものです。

「瑞友会」は、諸先輩が過去いろいろご努力を成され組織強化を図られてこられました。今ひとつ存在感に乏しい同窓会組織でした。現執行部一致団結し、卒業生・学内教職員の方々とも力を合わせ、若い人達の意見を大いに取り入れると共に、教授会・大学当局との関係を密にして、独立法人化した母校名古屋市立大学医学部の発展に寄与すべく組織の改革を図っているところですので、今後一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、来年6月に開催を予定いたしております総会には、是非とも多数の方のご出席いただき会を盛り上げていただきますとともに、貴重な御意見を賜りますことをお願い致しまして稿を閉じさせていただきます。



奥村 恪郎 瑞友会会長

#### 【略歴】

昭和44年名市大卒。同年4月より名市大病院での研修を経て、昭和45年5月名市大第一外科教室入局。昭和58年2月、医療法人鉄隻会 奥村胃腸科外科開設開業。平成16年より2年間、名古屋市医師会中村区支部会長。現在、愛知県医師会調査室委員、名古屋市医師会協同組合常務理事等。

### 津田喬子先生が社団法人日本女医会 会長にご就任!

#### 「社団法人日本女医会会長就任にあたって」

(社)日本女医会会長 津田 喬子

私は昭和44年卒で、麻酔科医として大学で長年お世話になりました。本年3月末で名古屋市立東部医療センター東市民病院センター長・病院長を退職し、5月に社団法人日本女医会(以下 当会)会長に就任致しました。

当会は明治35年に、当時全国で約100名の医術開業試験に合格した女医によって創設されました。創設者は前田園子先生、初代会長は吉岡彌生先生であり、私で9代目となります。設立時の目的は「医師として男性と同じ地位の確保」でした。当時の女性蔑視の社会環境における多くの困難を克服してようやく医術開業試験に合格した女医達の活躍は、日本国内にとどまらず外国にも及び、今日の女性医師への礎が築かれました。

現在、当会は全国に81支部を有し、会員数約1700名です。若い年代をはじめ多くの方から、今更なぞ女医会かと質問されます。答えは…真の男女共同参画社会が実現した暁には女性医師、男性医師の呼称は無用となります。そうなることを願って活動していますが、未だ日本では双方の意識が成熟するに至っておりません。同性の立場から、厳しい目でお互いの研鑽と成果すると同時に、相互の支援も必要であると考えます。当会は、男女共同参画社会のオピニオンリーダーとしてさらにキャリア継続のためのロールモデルあるいはメンターの役割を果たしつつ、活動を続けたいと考えております。本会のHPをご覧くださいれば誠に幸いに存じます(<http://www.jmwa.or.jp/>)。瑞医の読者におかれましては本会に入会いただき、ともに活動していただきますようお願い致します。

皆様の益々のご活躍と、医学研究科・医学部の更なる飛躍を祈念申し上げます。

#### 【略歴】

昭和44年名市大卒。東市民病院で1年間の研修後、昭和45年名市大麻酔学講座助手。昭和50年愛知医科大学麻酔学講座助手、昭和54年講師を経て、昭和57年名市大麻酔・蘇生学講座講師、昭和59年助教授、平成19年准教授。平成19年東市民病院副院長・麻酔科部長、平成20年名古屋市立東部医療センター東市民病院センター長・病院長、平成22年名誉院長。平成22年5月より現職。海外留学:カナダ国トロント大学麻酔学教室。



津田 喬子 日本女医会会長

### 第51回川澄祭! (11月5~7日) ~今年のテーマは聴・心・器~ ~実行委員長M4志水祐介さんにききました

こんにちは。第51回川澄祭実行委員長を務めます志水祐介です。今年も川澄祭が11月5日から3日間開催されます。まずこの場をお借りして、ご支援して頂いた同窓会、先生方はじめ多くの方々に厚く御礼申し上げます。

突然ですが私はゴルフをしています。ゴルフをしておられる方ならばお分かり頂けると思いますが、ゴルフ場に於いてナイスショットというのはそれほど必要ではありません。どんな素晴らしいショットを打っても良い結果になるとは限らないし、逆にミスショットが良い結果につながるがよく起こります。この、意図したこととその結果のズレというのは、人が濃密に関わり合う祭りの場に於いても頻繁に起こります。ゴルフでいうボールを打つという行為が、人とのコミュニケーションに変わったただけなのです。人に想いを伝える時、「全て伝えきった」という思いと裏腹に相手には十分に伝わらないということがよくあるかと思えます。

第51回川澄祭の「聴心器」というテーマには、まさに医師が聴診器を用いて体の声を聴くように、私たちは川澄祭に関わった人々の「心」を聴くということを大事にしたいという思いが表れています。今年の実行委員会はとても個性の強い人間の集った自慢の組織です。まず心を聴くということをテーマに我々自身が心を合わせることで、更にその思いを川澄祭という様々な人が集まる場で発すること。そうすることでただの「お祭り」ではない、意味のある川澄祭になると信じています。

日本には多くの大学があり、それぞれに大学祭があります。川澄祭はその中のたった一つでしかありません。その中で「異彩」を放つ川澄祭を作ることは、多くの実行委員がもてるエネルギーを使わなくてはなりません。授業や部活がある学生一同にとっては、なかなか難しいことです。しかし面白みのある医療従事者を作り上げてくれるのはまさにこういうことなのではないか、そう信じて今日も川澄祭に向けて活動しています。川澄祭でたくさんの方が心を聴きあい、笑いあえることを楽しみに実行委員一同頑張っています。それでは川澄祭でお会いしましょう。

川澄祭Official web site : <http://www.kawasumisai.com/>



第51回川澄祭実行委員会メンバーです!  
心をつなげて、皆様のご来場お待ちしております!

#### ★主な企画★

- 11/5(金):前夜祭
- 11/6(土):Big Band Battle、骨髄バンクチャリティイベント、エイズ知識普及イベント「Know more AIDS」、ダンスコンテスト
- 11/7(日):ゲスト企画「江頭2:50」、名フィル病院演奏会、ピンゴ大会、後夜祭
- 全日企画:模擬病院、Dr.&Ns.カフェ、川澄アート展、3キャンパス企画

### 第62回西日本医科学生総合体育大会★報告— 7/30~8/16

医学生のスポーツの祭典、通称西医体が、今年は、本学のある東海・北陸ブロックの名古屋大学が主管校となって開催されました。久々の地元開催とあって、6年生も勉強の合間をぬって多数参戦!大会の様子を、運営を支える評議委員 M4藤田康平さんに伺いました。

Q. 評議委員の役割は?今年の大会を振り返って一言。

A. 第62回西医体の評議委員を務めさせて頂きました藤田康平です。評議委員会では、西医体で実際に活動を行っている運営委員会の行う業務に対する監査・議論を行います。評議委員とは、その評議委員会において各大学の代表として参加し議決をとる役員です。毎年、各々が持ち回りで担当し、1年間大会の準備と運営にあたります。評議委員会で決定したことや西医体エントリー方法を各部活キャプテンにキャプテン会議をもって通知するなども行います。大変でしたが、全国の評議委員と仲良くなることができたことが大きな収穫です。

評議委員は直に西医体に触れているので、西医体についての思い入れも大きいです。西医体に向けて一生懸命練習していた友人や先輩、後輩の悔しそうな顔が目に残っています。すでに来年に向けてスタートしている部活が多くあります。来年は評議委員がはっと驚くような結果がさらにたくさんでいいです。

皆が楽しくプレーできる  
大会を目指しました!

#### 主な大会結果

バスケット部門	男子3位
バレー部門	男子4位
卓球部門	男子団体 4位
水泳部門	400M個人メドレー 3位
	100M平泳ぎ 優勝
	50M平泳ぎ 3位



最前列右から二人目が藤田君。自身もバレー部キャプテンとして活躍。

#### 豆知識

西医体の歴史:昭和24年、奈良県立医科大学と和歌山県立医科大学の両主管により、学生の発案・運営によって始まった。7校の参加があり、7種目の競技が行われ、以来その伝統は現在に至るまで受け継がれ、現在では44校が参加している。1万人以上が参加する由緒ある大会。

### 婦人科内視鏡手術最前線 女性に優しい低侵襲手術をめざして

名古屋市立東部医療センター東市民病院産婦人科

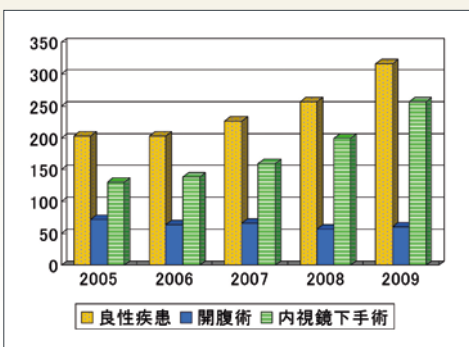
当科では1997年から内視鏡下手術を導入してきましたが、年々紹介症例が増加し2009年には腹腔鏡下手術229件、子宮鏡下手術28件となりました。現在婦人科領域では内視鏡下手術の対象疾患は良性疾患に限られており、2009年では卵巣腫瘍が134例(卵巣腫瘍摘出術106例、チョコレート嚢胞焼灼術28例)、子宮筋腫が72例(筋腫核出術24例、子宮全摘術35例、子宮鏡下筋腫摘出術13例)と大半を占めています。手術の主体が臓器の摘出で、再建を必要としない術式が多い婦人科手術において、内視鏡下手術は他の領域に比べ有用であると考えられます。また女性にとっては、術創が小さいという美容上の観点からもニーズが高まっており、当科でも手術をお待ちいただく期間が長くなっています。近隣の不妊クリニックからの紹介患者さんの中には、高齢である方も多く、出来るだけ早期の手術を望まれるのですがなかなかご期待にそえず心苦しいかぎりです。

内視鏡下手術は低侵襲手術といわれますが、開腹術では起こり得ない重篤な合併症に注意が必要です。当科においても合併症の経験をふまえ、安全性を求めて手術機器を選択し術式の改良を図ってきました。ここ5年間の合併症は総数796例のうち6例(0.8%)で、そのうち5例が臓器損傷(小腸、膀胱等)でしたが、いずれも腹腔鏡下に縫合処置を行い、合併症に起因する開腹術への移行例はありませんでした。開腹術への移行例は9例(1.1%)で、その8例は癒着が原因でした。

産婦人科の救急疾患としては卵巣腫瘍茎捻転や破裂、卵巣出血、子宮外妊娠等があり、緊急手術がよく行われます。特筆すべきは当院では手術室のスタッフ、麻酔科の先生方のご理解を得て、時間外でも緊急腹腔鏡下手術が可能であることで、大変ありがたく思っています。

最近、より低侵襲な術式として単孔式腹腔鏡下手術が目立っています。これはスコープや鉗子などを1カ所の切開創部から挿入して行う術式で、急速に普及しており近々当科でも導入を考えています。また現在は保険適応外である悪性腫瘍に対して、来たるべき日に備え技術を研鑽し、腹腔鏡で対応できるよう準備していきたいと思っています。現在当科での技術認定医は私ひとりですが、さらなる認定医の育成に努め、より一層の内視鏡下手術の充実を図り、信頼される医療を提供していく心づもりですので今後ともよろしくお願いたします。

(文責:産婦人科部長 村上 勇)



術式	2005	2006	2007	2008	2009	計
●子宮筋腫 TCR	6	11	9	8	13	47
●子宮内膜ポリープ TCR	9	6	4	7	13	39
●子宮腔内癒着剥離	0	0	0	2	2	4
●その他	0	0	0	1	0	1
計	15	17	13	18	28	91



◀左から橘理香医師、竹内清剛医師、村上勇部長



▶左から近藤裕子医師、鈴木規敬部長

### 地域貢献・地域活動

ようこそ大学の  
研究室へ!

### 「ひらめき☆ときめきサイエンス:脳の中で生まれる神経細胞 ～脳のできるしくみと医療への応用～」を開催しました!(8月21日)

まだ残暑も厳しい平成22年8月21日の土曜日に分子医学研究所再生医学部門において、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の事業として、「脳の中で生まれる神経細胞～脳のできるしくみと医療への応用～」を開催しました。定員の約10倍の応募者があり、その中から選考された20名の中学生と保護者1名が参加しました。

白井医学研究科長の挨拶で始まり、科研費と神経幹細胞についての講義の後、再生医学分野の教員と大学院生の指導の下、参加者全員が、新生ニューロンにGFPを発現するトランスジェニックマウスの脳切片の作成、共焦点レーザー顕微鏡による観察、脳梗塞モデルにおけるニューロンの再生過程の観察、培養されたニューロンの移動の観察などを体験しました。桜山キャンパス西棟に昨年オープンしたサクラサイドテラスにおけるバイキング形式の昼食や実習終了後のクッキータイムにおいては、受講生とスタッフがリラックスした雰囲気、将来の夢や大学での研究生生活などについての話をしました。

今回の企画は中学生には少々難しすぎるのではないかと心配していましたが、皆理解し興味を持って実験を行っているようでした。申請準備から当日の運営・報告書の作成までの開催者の負担は大きいですが、「大学で行われている最先端の科研費の研究成果について、小学生～高校生が直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらう」という本事業の目的は十分に達成できたようです。

(文責:再生医学分野 教授 澤本 和延)



白衣に着替え、いよいよ実習開始!共焦点レーザー顕微鏡を用いて、各自が作成したマウス脳切片の中のGFPで光る神経細胞を観察しているところです。



ランチはバイキング。和気あいあいとした雰囲気です。



最後に参加者とスタッフが記念撮影。夏休みのよい経験になったかな?

### 桜山の懐かしいお店紹介 一第7回「多香野」さん

「あそこの天むす、おいしいですよ。」—そう言うグルメな女性2人に連れられて、残暑の合間の雨の日、多香野ののれんをくぐった。清潔感のある店内でメニュー表を見上げると、天むすび定食の文字が。隣にはおにぎりの具材がずらりと並んでいる。店員さん曰く、「天むす5個がつく天むすび定食(730円)を、好きな具のおにぎりに変えるお客様が多いですよ。」とのこと。それならばと、おのおのが梅ぼし、鮭、牛肉しぐれ、塩辛、うに、晩菊、山ごぼう…と注文していく。こんなに選べることで、いつの間にかウキウキしている自分。定食ということで、小鉢や漬け物、赤出し(煮麺入り!)も付いている。もちろん、天むすのさくさく感は言うまでもなく、あつという間にお腹の中へ。持ち帰りも出来るので、ゆっくり食べる時間のない方にもおすすめ。

文責:博士課程3年 澤田雅人



お店外観



天むすと好きなおにぎりを一緒に楽しめます



営業時間は11:00～17:30  
(17:00ラストオーダー)で第2月  
曜は定休、日曜は持ち帰りのみ可  
なので、ランチに是非お試しあれ!

